

願成寺報

平成十五年二月九日

〒四四〇・〇八二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

■ 報恩講のご案内

左記により報恩講を勤修いたします

報恩講は御開山親鸞聖人のご恩を報ずる法会で、真宗寺院および門徒にとつて一番大切な行事です。今年は聖人の七四一年忌に当たります。万障お繰り合わせの上、お誘い合わせてお参り下さい。

早春の一日をゆつたり過ごして頂ければ幸いです

― 記 ―

二月 二十二日(土) 午前十時 法話 戸田 信行 師

お非時(粗飯準備します)

午後一時半 法話 戸田 信行 師

二十三日(日) 午前十時 法話 戸田 信行 師

お非時(粗飯準備します)

午後一時半 法話 福澤 秀倫

甘酒

○ 法話を 戸田 信行 先生にお願いしました。額田郡にある浄泉寺のご住職

で、父(前住職)と同じ世代の方です。本山やいろいろな寺院でお話されているベテランの先生です。是非ご聴聞下さい。

○ 今まで春の彼岸(讚仏会)と一緒に報恩講をお勤めしていましたが、今年から別々に勤めることと致しました。

お彼岸ですと、近隣の御寺院方やお説教の先生もそれぞれに忙しく、思ったようなお勤めが出来ません。寒い季節ですが、だからこそとお勤めすることとしました。賑やかなお勤めが出来たらよいと思います。

大型ストーブ一基を購入しました。暖かくお参り頂けると思います。

○ 御本前のお飾りを五具足にします。若坊守が仏花として立花を生けると張り切っています。お参り頂いた感想など聞かせ頂ければ幸いです。

○ お非時(お寺で午後に振舞われる食事のこと)

おこげのある御飯・味噌汁・飛竜頭などを準備できれば良いと思います。が、難しいです。例年のお弁当に、温かい味噌汁を加えられたら良いかと計画しています(出来るかな・・・)。

○ 毎年お願いしていた本山義納金(金壱千円)について

御影堂修理の募財をお願いしていることもあり、当分の間、集める事を止めます。修理の募財をお持ちより頂ければ幸いです(後述)。

「転ずるといふこと」

小学校の頃、教科書で『蜘蛛の糸』を読みました。先生から感想を求められた時、お釈迦様はひどいと答え、皆に怪訝な顔をされたのを覚えています。天上から地獄のカンダタをご覧になり、戯れに救いの糸を垂らし、カンダタが失敗すると失望しそのまま去って行ってしまう芥川龍之介のお釈迦様は今でも違うと思います。地獄に降りて、私達の苦しみを同じに苦しんで下さる仏様でなければ有難くないなど。

寺に戻って、結婚し、子供が生まれ、父が病気になった。生活がどんどん変わっていく時、育児書を読むのが好きでした。育児書に支えられた感じがしています。母親のまなざし^{まなざし}が子供を育てるのだと書いてありました。実際に面倒を見ることも大事だが、勇気を出して面倒見ることが止めることも大事だと。母親はそこに居るだけでよいと。子供は母親の傍で安心し、冒険をし、泣き笑うのだと。本によって「育てる」を学びながら「育つ」について思い、不安で一杯だった私が癒されていたと思います。育児書は仏教書のよ^ように安心を説いていました。比べることで得られない、結果を気にしない安心は、共に在る何かのまなざし^{まなざし}から得られるのだと教えられました。

こんなことも書いてあります。三歳くらいになって「いやだ、いやだ」と親のまなざし^{まなざし}を振り切っていく頃から、自我としての私が始まるのだと。とすると、自我としての私は、「いやだ、いやだ」と言うのが仕事であり、

その限りにおいて救われことはないと知らされます。自我としての私は、救われることを拒んだ存在だったのです。

御開山聖人は、自我としての私を「煩惱具足の凡夫」と呼ばれました。私はこの言葉が嫌いでしたが、最近よく使うようになりました。凡夫にしか気づけない事があると思えるようになったからです。「地獄に仏」という言葉がありますが、地獄でなければ仏に出会えないと言う事でしょう。天上にいたら、仏に出会ってもただの人と見過ごしてしまうに違いありません。

コンピュータの仕事をしている時、ある上司の下にいました。その上司は何もしてくれない人で、私は、いない方がいいと陰口を言いながら働いていました。ある時、大失敗をし、苦境に立ちました。その時のその上司は、普段と違っていて、得意先を謝って回るといふ一番嫌な仕事を引き受けてくれました。とても嬉しかったのを覚えています。苦境によってその上司の尊さに気付けたのだと云えます。

苦しみを作り出すのが凡夫の仕事ですから、これを止めることは出来ません。凡夫に出来ることは「苦しみの中に尊さを見出していく事」だけだと思います。逆に凡夫にしか出来ないことだとも思います。

作家の五木寛之さんがテレビで仰っておられました。「人間は苦勞をしてはいけない。苦勞をした人間は他人に優しくなれない。誰かの苦勞話を聞いて

ても、俺のほうがもつと苦勞をしたと思うようになる」と。苦しみばかりが増幅し伝播していきます。

私達は苦しみを転じなければならぬと思います。そのための力はすでに阿弥陀仏より私に賜っていると御開山聖人がお示し下さっています。阿弥陀仏は私たちの在り様と関係なく、共に在り、まなざしを向けて下さっているのだからと。

煩惱にまなこさへられて 撰取の光明みざれども

大悲ものうきことなくて つねにわがみをてらすなり

《源信大師和讃より》

苦しみを転じて尊さを見出していく姿が、念仏する姿であり、前の世代から受け継いだ大切な宝だと思えます。次の世代に受け取って貰えるように怠りなくしたいものです。

(任職 福澤 秀倫)

考えると眠れなくなる問題

- 鏡に映すと左右は逆に映るのに、上下逆にならないのは何故か？
- 「違わない」と云う事と「同じである」と云う事は同じか違うか？
考える前は当たり前だったのに、考えはじめたら解らなくなる事ってありますね、本当はそんな事ばかりなのかも…

「私の宝」

不思議なご縁に恵まれてここに嫁がせて頂いてから、今年でもう四十六年にもなりました。お檀家の皆様の暖かい御支援を得まして大過なく現在に至りましたこと、ただく有難く思います。

何と申しまして、一番残念で悲しい出来事は先代任職を見送らねばならなかったことです。佛教でいう「いのち」は悠久の過去世から未来永遠と続く「いのち」であり、この世の「いのち」は滔々と流れる川の一粒の水泡に過ぎないといわれます。阿弥陀仏の御慈悲を喜び、一つの目的に向かっておりました私共は、いつの日か必ずま見えることがあると信じています。

佛法は「最高の宝」です。私のこの肉身まで捨てて逝かねばならない時になっても、これだけは離れずに持って行けるものです。他には何もありません。どうか皆さんも「佛の教え」を聞いて下さって「わがもの」として下さい。その為にも御身体を充分においとい下さいますように念じています。

(前坊守 福澤 佳津子)



■平成十五年行事予定

二月 二十二日（土） 報恩講

二十三日（日） 真宗寺院として一番大事な法会です

法縁を通して御開山親鸞聖人の恩徳を仰ぎます

三月 二十一日（金・祝） 春季彼岸（讚仏会）・永代経法会

それぞれにご縁のある仏様の遺徳を讃え 仏様を通して私を振り返ります

九月 二十三日（火・祝） 秋季彼岸（讚仏会）・永代経法会

それぞれにご縁のある仏様の遺徳を讃え 仏様を通して私を振り返ります

十一月 三日（月・祝） 高田本山団体参拝

高田本山の納骨堂法会に参拝します
豊橋市内・近郊の高田派寺院と共にバスを借りての日帰り旅行です

○何か行事が少なすぎるような感じがしております

もっと沢山の機会にお寺に集まって頂き、それぞれにお念仏を戴き合っ
ていく事が大事な筈なのに・・・

駆け出しの住職は いろいろに迷っています

ご意見をお寄せ下さい

■高田本山御影堂修理の御懇志について

檀徒総代の皆様のご協力を得て、御影堂修理の御懇志を募っております。
ハガキでのアンケートの集計結果を記します。想像を超えた結果に驚き、
恐縮し、皆様のお心の深さと、自分の立場の重さを改めて実感しています。

回 答 数 二七三 戸
懇志金合計 金一〇三五万円

（平成一五年二月八日現在）

○募財の集め方

法会の機会などに願成寺までお持ちより下さい

来寺が困難な場合、郵便振替でお願いします

振替口座 00850・1・46614 願成寺（ガンジヨウジ）

○募財は文化財保護の寄付に当たり、**確定申告で控除**が受けられます。
本山発行の証明証が必要です。ご入用の方は寺までお申し付け下さい。

― 檀徒総代より 御礼とお願い ―

この度 本山御影堂の大修理に対し御懇志のご協賛をお願い致しま
した処 御檀家の皆様方の暖かいお心がおハガキにて寄せられ 過
日ご住職よりご報告を頂きました 檀徒総代一同心より厚く御礼を
申し上げます 有難う御座いました

例年は春・秋のお彼岸を中心に報恩講を催行致して参りましたが 本
年より 一頁目にご住職よりのご説明の通り 報恩講とお彼岸を
別々に催行致して参りますので宜しくお願ひ申し上げます
尚その折に ご都合の宜しき方は本山大修理の御協賛金をお持ちよ
り下されば受付けに於いてご奉受させて頂きませう